

## 認知症に関する活動計画（概要）

茨城県作業療法士会では、以下の活動計画を中心に活動を進めております。

- ①認知症の理解を深める活動
  - ・VR認知症体験会（2024年、新体験ソフトが完成）
- ②他団体・行政等の認知症関連事業への支援、協力



## 認知症の理解を深める活動

主たるツールとして士会独自のVR・AR認知症体験ソフトと、協会作成のDVD「二本の傘」の上映とを合わせて、認知症を知り・考える時間をマネジメントしております。体験ソフトは昨年度末に完成した2作目として、アルツハイマー型認知症の当事者の体験を基にした「帰宅路ミス」を再現する映像を制作しました。

2017年から依頼元の各事業とコラボレーションさせて頂き、継続的に体験会を開催してきました。今年度は、8月末時点で21件の依頼を受けております。依頼元は高齢者サロンなど地域団体、医療介護福祉専門職等の教育機関、道の駅等で開催されるフェスティバル内（多企業の一員としてブースを設置）など、多世代に渡り認知症の理解促進に取り組んでおります。



本活動は茨城新聞で紹介されるなど徐々に認知され、市町村を始めとし社会福祉協議会や地域包括支援センター、認知症地域支援推進員など連携の幅が広がってきました。昨今問われる「共生社会」および「認知症共生社会」の構築を目指す中で、作業療法士が認知症とともに暮らす方法を考えるパートナーになり得る事を、体験会を通して強く広く発信して参ります。

その為に多業種との連携を続け、医療介護福祉に拘らず幅広いネットワークの構築を実現出来る様、認知症支援推進委員会として邁進いたします。

## 認知症の人と家族の会との連携事業

今年度より事業への協力が再開となり、当会の事業とのコラボレーションをする事となりました。9月の認知症月間に合わせ、当事者および家族らを対象とした企画へ参画する事となりました。